



福島の風評被害減らそう

福岡第一高 復興庁が出前授業

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故による風評の払拭・抑止を目的とした復興庁の出前授業が、福岡市南区の福岡第一高で開かれた。同校国際科の1、2年生約35人が、風評被害を減らすため自分たちでできることを話し合った。

出前授業は10月末までに全国9ブロックで実施。同校では5日に行われた。

この日はまず、復興庁の徳増伸一参事官が、震災復興の現状や原発廃炉に向けた取り組みを説明。福島県内の空間線量率は2011年の事故発生直後に比べ大幅に減少し、海外主要都市とほぼ同水準になっている

ことや、食品からも問題となるような値の放射性物質

は検出されていないことを強調した。一方で、輸入規制を続けている国があることなど、風評被害の実態にも触れた。

その後、生徒たちは班ごとに分かれて風評払拭のためのアイデアを出し合うワークショップに臨んだ。発表者からは「SNSを使って、福島産農作物の安全性を世界に発信する」「現地足を運び、実際に見て考えることが大事だ」などの意見が出された。

放射性物質を含む処理水の海洋放出について、生徒から「放出により風評被害が出たらどうするのか」との質問もあり、徳増氏はその場合は基準に基づいて賠償される」と答えた。